

6
7
8
9
30
1
2
3
4
5
6
7
8
9
4

始



315

内務
4.8.24
正

昭和
三年度

業務功程報告書

島根縣種畜場

昭和三年度島根縣種畜場業務功程報告書目次

第一章

第一節

沿革 本場ハ明治四十年四月ノ創立ニシテ元
 縣立農事試驗場ノ土地建物ノ引繼ヲ受ケ元
 畜産巡回教師附屬種畜飼養場ノ家畜建造物
 並ニ縣立農林學校ノ鶏舎ヲ移轉シ事業ヲ開
 始セリ

位置 本場ハ八束郡乃木村大字福富ニ在リ縣
 廳ヲ距ル約一里松江市ノ南西穴道湖畔ニ瀕
 シ縣立農林學校ニ隣接ス而シテ山陰線松江
 驛及湯町ノ中間ニ位置ス

174/3/5

昭和三年度島根縣種畜場業務功程報告書目次

第一章 總說

第一項 事業

第一 主管事業

第二 試驗事業

第三 用地

第四 建物

第五 收入

第六 支出

第七 參觀人員

第八 文書取扱件數

第九 職員

第二章 家畜

第一項 畜牛

第一 畜牛異動表

イ 本場繫養種牛異動表



七 七 六 六 六 五 五 四 三 三 二 一 一 一 一

第二	本場繁養畜牛現在表	八
第三	本年度生產種牛明細表	八
第四	本年度購入候補種牛明細表	八
第五	本年度貸與種牡牛明細表	八
第六	貸與種牡牛異動明細表	八
第七	貸與種牡牛現在表	八
第八	種牡牛蕃殖成績表	八
第九	本場繁養種牡牛蕃殖成績表	八
第十	貸與種牡牛蕃殖成績表	八
第十一	改良和種候補種牡牛發育成績表	八
	泌乳成績表	八
	飼養管理	八
	飼養法	八
	飼料標準日量表	八
	改良和種候補種牡牛冬期飼料表	八
	改良和種候補種牡牛夏期飼料表	八
	乳用種冬期飼料表	八

七 八 九 一 二 四 四 三 一 八 一 八 一 八 二 四 二 五 二 五 二 五

第二	乳用種夏期飼料表	二六
二	乳用種飼料表	二六
八	哺乳	二六
二	管理法	二七
第二項	養豚	二七
第一	種豚現在表	二七
第二	豚生產表	二八
第三	豚拂下頭數郡市別表	二八
第四	餘勢種付頭數表	二九
第五	豚ノ飼養管理	二九
一	飼養法	二九
イ	飼料ノ給與	二九
二	管理	三〇
第三項	家禽	三〇
第一	家禽現在表	三一
第二	種鶏ノ飼養管理	三一
(一)	粉餌	三二
(二)	粒餌	三二

二六 二六 二七 二七 二七 二七 二八 二八 二九 二九 二九 二九 三〇 三〇 三一 三一 三二 三二

第三	育雛飼料配合例	三三
(一)	粉餌	三三
(二)	粒餌	三三
第四	孵化成績	三四
(一)	種禽拂下調	三五
第五	產卵調	三五
(一)	種卵拂下調	三六
第三章 圃場		
第一項	作付反別	三七
第二項	栽培牧草種類	三七
第三項	作付表	三八
第四項	栽培法狀況	三八
第五項	飼料貯藏	三九
		四〇

昭和三年度業務功程報告書 (第二十二回)

第一章 總說

第一項 事業

第一、主管事業

種	牛	蕃殖育成	配付	種	付
種	馬	同	同	同	同
種	豚	同	同	同	同
種	禽	同	種禽種卵配布	同	同
牧草栽培	種子配付				
講習講話					
畜產技術傳習生養成					
第二、試驗事業					
家畜飼養試驗					
肉牛肥養試驗					
乳牛ニ關スル試驗					
豚肥養試驗					
家禽飼養試驗					

飼料ノ經濟的試驗
 特異飼料試驗
 家畜蕃殖試驗
 家畜ノ改良上種類適否ノ試驗
 交叉蕃殖試驗
 牧草試驗
 播種收穫試驗
 牧、野草貯藏試驗
 種類ノ適否試驗
 乳肉加工試驗
 牛酪製造試驗
 煉乳製造試驗
 燻腿其他試驗

第二項 用地

一、用地面積
 四町七反貳拾七步參合
 內
 建築敷地 壹反四畝拾九步六合
 牧草及蔬菜地 貳町壹反七畝貳拾壹步七合(內借入地參反壹畝拾四步七合)
 周圍井手敷地 壹反四畝九步
 家畜家禽運動場 參反貳拾六步(借入地貳畝步)

農林學校運動場 六反步
 同校桑園 五反參畝步
 通路其他 八反拾壹步

第三項 建築物

建築物表

種別	坪數	種別	坪數	種別	坪數
事務所	四一・五〇	第三號厩舍(二階建)	二四・〇〇	倉庫	一五・〇〇
第一號厩舍	四〇・〇〇	堆肥舍	二一・二五	第一號豚舍	一九・五〇
第二號厩舍	三六・〇〇	收糞舍	一一・〇〇	第二號豚舍	一三・七五
第一號厩舍	三五・〇〇	酪農舍附屬釜場	二二・〇〇	第一號乳肉所	一一・〇〇
家畜飼料調理室	一七・〇〇	酪農舍(二階建)	二七・五〇	第二號乳肉所	一一・〇〇
廊下	一三・五〇	孵卵器室	五二・五〇	燻製肉所	一一・五〇
釜場及小使室	一七・五〇	育雛舍	三〇・〇〇		
物置	四〇・〇〇	第二號雞舍	一九・五〇		
便所	二〇・〇〇	家畜飼料調理室	四〇・〇〇		
第四號厩舍	二五・〇〇	第一號雞舍	二〇・〇〇		

第四項 收入支出

決算表

種別	科	目	昭和三年度決算額
第十款	使用料及手數料	第一項 使用料	三五六・〇〇〇
			三五六・〇〇〇

第五項 出張

畜用	出		入	
	部	歲	計會別特	部
產	第三款	縣職員費	第十二款	勸業費
視	第一項	俸給料	第七項	種畜場費
務	第三項	應	第一項	納金
管	第一項	納金	第一項	辨價及分擔金
區	第一項	納金	第一項	辨價及分擔金
別	第一項	納金	第一項	辨價及分擔金
回	第一項	納金	第一項	辨價及分擔金
數	第一項	納金	第一項	辨價及分擔金
日	第一項	納金	第一項	辨價及分擔金
數	第一項	納金	第一項	辨價及分擔金

第六項 參觀人

事	馬	畜	主	畜	養	養	養	(共)	種	何	畜	畜	貨
事務	事務	產	任	產	鷄	鷄	會	社	牛	料	產	種	與
協	務	間	會	研	講	評	會	牛	牛	牛	牛	牛	牛
視	打	視	會	談	究	講	講	講	講	講	講	講	講
視	議	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會	會
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
外													

-- -- -- -- -- 二 -- 〇 五 七 五 二 四 九 一													
四	二	〇	二	二	二	二	一	八	一	四	五	一	三
二	〇	二	二	二	二	二	一	八	一	四	五	一	三
二	〇	二	二	二	二	二	一	八	一	四	五	一	三
二	〇	二	二	二	二	二	一	八	一	四	五	一	三
二	〇	二	二	二	二	二	一	八	一	四	五	一	三
二	〇	二	二	二	二	二	一	八	一	四	五	一	三
二	〇	二	二	二	二	二	一	八	一	四	五	一	三
二	〇	二	二	二	二	二	一	八	一	四	五	一	三

第七項 文書取扱件數

區	別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計	
件	區	員	八四七	五三〇	九六	一四五	四〇七	三六	五〇九	一八八	九四	五八	九三	三五六	三、七〇八
		數	一、三二二	九三三	二、三三四	九九三	二、三三四	九九三	二、三三四	九九三	二、三三四	九九三	二、三三四	九九三	二、三三四

第八項 職員

就職年月日	摘要	職名	氏名
昭和三年八月廿三日	島根縣地方農林技師	場長技師	大手虎十郎
昭和三年四月十四日辭職	島根縣立松江農林學校講師	場長技師	長谷川牛七
大正十四年六月卅日	島根縣立松江農林學校教諭	同	正田德次
同十五年七月七日	島根縣地方農林技師	同	佐瀨智一
同 八年三月卅一日	島根縣技師、島根縣農林技師	技手	長谷川久治郎
同 九年十一月八日	島根縣立松江農林學校畜産技術教師	同	山井映三
昭和三年一月十五日駐在	島根縣農林技師	同	横倉輝
昭和三年八月廿五日辭職	島根縣立松江農林學校畜産技術教師	同	永田二郎
大正十五年三月卅一日	島根縣立松江農林學校教諭	同	後藤正義
昭和四年二月二十一日	島根縣農林技師	同	柳原正大
大正十三年七月卅一日	島根縣農林主事補	主事補	永岡正夫

第二章 家畜
第一項 畜牛

本年度ニ於テ實施シタル業務ノ概要左ノ如シ
一、候補種牡牛購入

改良和種候補種牡牛トシテ本縣内生産優良牡牝二十七頭ヲ購入セリ
一、候補種牡牛ノ育成貸付
改良和種牡牛十四頭及ホルスタイン種二頭ヲ育成シ縣下島郡畜産組合ヘ貸付セリ
一、乳用種
乳用種ホルスタイン種ノ蕃殖ヲ圖ルト共ニ其餘勢ヲ以テ民間ノ牝牛ニ種付セリ
一、貸與種牡牛ノ無償下付
貸與種牡牛中貸與期限滿了シ其飼養管理良好ニシテ之ヲ借受畜産組合ヘ無償下付セルモノハ四十九頭ナリトス
一、乳製品ノ製造
本場生産ノ牛乳ヲ以テ「バター」ノ製造ヲナシ技術ノ傳習ヲ行ヒタリ

第一 畜牛異動表
(イ) 本場繋留種牛異動表

種類	前年度末現在	購入	生産	計	貸付	拂下	年度末現在
ホルスタイン種	八	二七	一	三九	二	一	一八七
改良和種	五	二七	一	三三	一四	一	一八七
計	一三	二七	一	四一	一六	一	二五

(ロ) 貸與種牡牛異動表

種類	前年度末現在	本年度貸付	計	無償下付	斃死	年度末現在
ホルスタイン種	一	二	三	一	一	三
改良和種	一三二	一四	一四六	四九	一	九六
計	一三三	一六	一四九	四九	一	九九

第一 本場繁殖畜牛現在表 (昭和四年三月末日現在)

種類	名	性	毛色	生年月日	血統	体高	産地
ホルスタイン種	クリエーター、マツキンレー、オ ムスビー、(登録第四八〇號) メクシルド、ユケ、エ、オームス ビー (登録第七〇〇號) クリエーター、メー、ジウエル (登録第七〇〇號) ゲールチエ、ホリンゲン、クリエ ーター (登録第七〇〇號) ゲールチエ、ホリンゲン、オーム スビー 第二クリエーター、メー、ジ、オ ムスビー 第三クリエーター、メー、ジ、オ ムスビー	牡	黒白斑	大正一、八、一五	父バプスト、クリエーター、 母マツキンレー	一五、〇	北海道東畑 會社 川農場
	玉	同	黒白斑	同	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一四、〇	同
	錦	同	黒白斑	同	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一四、〇	同
	第 三	同	黒白斑	同	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一四、〇	同
	第 二	同	黒白斑	同	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一四、〇	同
	石 隆	同	黒白斑	同	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一四、〇	同
改良和種	桐 山	同	黒毛	二、一〇、八	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 三	同	黒毛	二、一〇、二〇	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 二	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村
	第 一	同	黒毛	二、一〇、一	母クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	一六、〇	能義郡 山佐村

種類	名	性	毛色	生年月日	血統	体高	産地
ホルスタイン種	東 旭	同	黒白斑	三、一、一〇	母父小旭	一五、五	大東町
	第 三	同	黒白斑	三、一、一四	母父小旭	一三、〇	能義郡 布部村
	第 二	同	黒白斑	三、三、六	母父小旭	一七、〇	能義郡 赤屋村
	森 上	同	黒白斑	三、四、二〇	母父新	一五、〇	能義郡 島上村
	第 二	同	黒白斑	三、六、二	母父新	一三、〇	能義郡 井尻村
	島 川	同	黒白斑	三、六、二四	母父大	一一、〇	仁多郡 八川村
	第 四	同	黒白斑	三、七、五	母父大	一一、〇	仁多郡 八川村
	第 四	同	黒白斑	三、七、五	母父大	一一、〇	仁多郡 八川村
	第 四	同	黒白斑	三、七、三	母父大	一一、〇	仁多郡 八川村
	竹 林	同	黒白斑	三、七、二	母父大	一一、〇	仁多郡 島上村
	第 二	同	黒白斑	二、七、三〇	母父錦	一四、〇	能義郡 赤江村
	第 二	同	黒白斑	二、七、三〇	母父錦	一四、〇	能義郡 赤江村
	井 尻	同	黒白斑	大正一、三、三、一〇	母父山	一四、五	能義郡 井尻村

第三 本年度生産種牛明細表

種類	名	性	毛色	生年月日	血統	産地
ホルスタイン種 フリールン種	第三クリエーター、メー ジ、オームスビー	牡	黒白斑	昭和 四、三、二一	母父 クリエーター、マツキンレー、 オームスビー	當場

第四 本年度購入候補種牛明細表
本年度購入セル畜牛ハ改良和種牡牛二十七頭ニシテ表示セバ左ノ如シ

種類	名	號	性	毛色	生年月日	血統	產地	購入年月日
改良和種	第二藤	森	牡	黒毛	大正一五、二、一〇	母父 須第二 森	仁多郡鳥上村	大正 三、四、一九
同	高	輝	同	同	昭和 二、一、三	母父 第三十 玉	能義郡井尻村	同 三、四、一九
同	西	山	同	同	二、八、一〇	母父 第三 玉	同 山佐村	同 三、四、一八
同	大	江	同	同	二、六、二八	母父 第十九 大	同 井尻村	同 三、四、一八
同	第二旭	山	同	同	二、六、二二	母父 旭	同 比田村	同 三、四、一八
同	大	岩	同	同	元、二、二五	母父 都大	八東郡岩坂村	同 三、五、一
同	玉	岩	同	同	二、一、一五	母父 第八 玉	能義郡山佐村	同 三、七、一四
同	隆	川	同	同	二、七、一〇	母父 日隆	仁多郡八川村	同 三、七、一四
同	第二佐	山	同	同	三、一、一	母父 第八 玉	能義郡山佐村	同 三、七、一四
同	錦	莊	同	同	二、一、二〇	母父 錦	同 字賀莊村	同 三、七、一八
同	第二蓬	菜	同	同	二、七、一〇	母父 蓬	同 八東郡朝酌村	同 三、七、二一
同	桐	山	同	同	二、一〇、八	母父 第四十一 桐	仁多郡八川村	同 三、八、一四
同	第二隆	川	同	同	二、四、二一	母父 吉隆	同 八川村	同 三、八、一四
同	馬	木	同	同	二、五、一	母父 小榮	同 馬木村	同 三、七、二九
同	第三旭	山	同	同	三、一、一四	母父 小旭	能義郡布部村	同 三、八、一四

種類	名	號	性	毛色	生年月日	產地	貨與年月日	貨與畜産組合名
同	第二錦	莊	同	同	二、七、三〇	母父 瑞錦	同 字賀莊村	同 三、八、一四
同	東	山	同	同	三、一、一〇	母父 小生	大原郡大東町	同 三、八、二六
同	石	西	同	同	二、九、二一	母父 末興	飯石郡 西須佐村	同 四、一、一〇
同	第三隆	川	同	同	二、一〇、二〇	母父 滑隆	仁多郡八川村	同 四、一、二二
同	森	上	同	同	三、四、二〇	母父 新森	同 鳥上村	同 四、一、二二
同	第三佐	山	同	同	二、一、一七	母父 第八 玉	能義郡布部村	同 四、三、二九
同	第四佐	山	同	同	三、七、三	母父 吹山	同 山佐村	同 四、三、二九
同	第二赤	山	同	同	三、三、六	母父 第十 玉	同 母里村	同 四、三、二九
同	第二大	井	同	同	三、六、二	母父 第十九 大	同 井尻村	同 四、三、二九
同	竹	林	同	同	三、七、二二	母父 榮	仁多郡鳥上村	同 四、三、三〇
同	島	川	同	同	三、六、二四	母父 第五 敷	同 八川村	同 四、三、三〇
同	第四隆	川	同	同	三、七、五	母父 第四 隆	同 八川村	同 四、三、三〇

第五 本年度貸與種牡牛明細表

種類	名	號	性	毛色	生年月日	產地	貨與年月日	貨與畜産組合名
ホルスタイン	クリエーター	スビー	牡	黒白斑	昭和二、一、二〇	當 鹿足郡日原村	昭和三年四月十日	八東郡松江市畜産組合
改良和種	第二金	山	同	黒毛	大正一五、二、二七	同	七月十四日	鹿足郡畜産組合

体	重	二五、四〇	二八、三	二九、九	三二、三	三三、七	三六、一	三七、三	三七、八	三九、八	四〇、三
---	---	-------	------	------	------	------	------	------	------	------	------

第十 泌乳成績表
本年度ニ於テ搾乳セル乳牛頭數ハホルスタイン種三頭ニシテ其泌乳成績左ノ如シ (單位封度)

月次	ゲールヂエ、ジョハナ、ビーブ(初産)		クリーター、メージ、オームスビー(一産)		クリーター、メージ、オームスビー(三産)	
	泌乳量	全日數	泌乳量	全日數	泌乳量	全日數
四月	一三〇四、八	三〇日	一四七七、七	三〇日	一四七五、五	三〇日
五月	一三二〇、〇	三一	一五〇三、五	三一	一四六五、六	三一
六月	一二〇七、七	三〇	一四七六、八	三一	一四七六、八	三一
七月	九三七、七	三一	一〇七六、八	三一	一〇七六、八	三一
八月	八〇五、七	三一	九五四、五	三一	九五四、五	三一
九月	七七一、五	三一	八八八、四	三一	八八八、四	三一
十月	八一、〇	三〇	八九八、六	三一	八九八、六	三一
十一月	七六九、〇	三一	七〇七、五	三一	七〇七、五	三一
十二月	八〇〇、五	三一	五一二、八	三一	五一二、八	三一
計	一〇七〇三、六	三六五	九六四二、九	三五五	四五五、五	九

第十一 飼養管理

一、飼養法

飼料ハ「ケルネル」氏飼養標準ニ基キ年齢、体重、個体、等ヲ參酌シテ給與ス
飼料ノ給與時刻ハ季節ニ依ツテ多少ノ差異アルモ朝飼午前六時半、晝飼午前十一時、夕飼午后五時、夜飼午後九時ノ四回ニ分ケテ給與ス

(イ) 飼料表 (單位斤)
改良和種候補種牡牛冬期飼料表

種別	大麥	小麥	米	糠	大豆粕	切藁	野乾草	食鹽
六ヶ月以上十二ヶ月以下	一〇	一〇	二、三	二、三	一、一	一、五	三、八	〇、〇
十二ヶ月以上十八ヶ月	一〇	一〇	二、三	二、三	一、一	一、五	三、八	〇、〇

(ロ) 改良和種候補種牡牛夏季飼料表

種別	大麥	小麥	米	糠	大豆粕	切藁	生草	食鹽
六ヶ月以上十二ヶ月以下	一〇、五	二、二	二、二	〇、三	〇、九	一、一	一七、〇	〇、〇
十二ヶ月以上十八ヶ月	一〇、五	二、二	二、二	〇、三	〇、九	一、一	一七、〇	〇、〇

(ハ) 乳用種冬期飼料表

種別	乾牧草	埋草	碎大麥	小麥	大豆粕	玉蜀黍	食鹽
六ヶ月以下	二、二	一	二、〇	一、〇	〇、六	〇、五	〇、〇
六ヶ月以上十二ヶ月	三、八	一、三	二、〇	一、七	〇、九	一、三	〇、〇
十八ヶ月以上	三、八	一、三	二、〇	一、七	〇、九	一、三	〇、〇
種牡牛	九、〇	一	二、〇	一、九	〇、八	一、三	〇、〇
種牝牛	四、五	二、〇	二、〇	一、三	〇、九	一、三	〇、〇

(二) 乳用種夏季飼料表ノ一

種別	生牧草	草碎	大麥	小麥	藪	大豆	粕	食	鹽
六ヶ月以下牝牛	六、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇	〇、〇
十二ヶ月以上十八ヶ月牝牛	一五、〇	一、九	一、九	一、九	一、九	〇、六	〇、六	〇、〇	〇、〇
種牝牛	三〇、〇	一、五	一、五	一、五	一、五	一、一	一、一	〇、〇	〇、〇
牝牛	一八、〇	二、〇	一、九	一、九	一、九	〇、六	〇、六	〇、〇	〇、〇

(ホ) 乳用種飼料表ノ二

種別	乾牧草	生牧草	埋草	濃厚飼料給與料	濃厚飼料配合割合
泌乳牛冬期飼料	五、六	—	—	泌乳量三疋ニ付一疋	碎大麥 四、〇 小麥 三、〇 大豆粕 一、〇 玉蜀黍 一、〇
泌乳牛夏期飼料	—	三〇、〇	—	同 三疋ニ付一疋	四、〇 三、〇 九、〇 —

(ハ) 哺乳

犢牛ハ生後直チニ母牛ヨリ分離シ人工哺育ヲナス

哺乳標準表 (單位斤)

性	牛乳	第一週	第二週	第三週	第四週	第二ヶ月	第三ヶ月	第四ヶ月	第五ヶ月	第六ヶ月
牝	全乳	〇、四	〇、五	〇、四	〇、四	〇、三	〇、四	〇、四	〇、四	—
牝	脱脂乳	—	—	二、〇	〇、四	〇、五	〇、四	〇、四	〇、四	—

二、管理法

- 一 牛舎ハ毎日掃除ヲ行ヒ汚染セル藁草ヲ除去シ且ツ乾燥セル藁草ヲ補給シ空氣ノ流通及日光ノ射入ヲ圖リ清潔ナラシム
- 一 牛舎及飼槽等ハ汚染ノ都度良ク洗滌シ毎月一回以上大清潔法ヲ行フ
- 一 畜牛ハ毎日叮嚀ニ梳拭シ雨雪ノ日ヲ除キ午前ハ自由ニ運動セシメ午後ニ於テ牽運動ヲ行フ
- 一 削蹄ハ時々之ヲ行ヒ肢勢及蹄形ヲ矯正ス
- 一 搾乳ハ一日二回乃至三回トナスモ多乳ノ期間ハ四回ニ搾乳ス

第二項 養豚

本場ハ縣下養豚ノ増殖並ニ資質ノ改善ヲ圖ランガ爲メ毎年二頭宛優良豚ヲ購入シ血液ヲ更新シ其成績大ニ見ルベキモノアリシガ本年度ハ豫算ノ都合ニテ購入ヲ見合セルニ至レリ而シテ本場ニ於ケル獎勵種類ハヨークシャー種、パークシャー種ナリ然レドモ當業者ノ嗜好ハ殆ンドヨークシャー種ニ傾キツ、アル現況ナリ

第一 種豚現在表

種類	名	號	性	産地	生年	月
ヨークシャー種	第二	初	雪	東京府下立川町	大正十四年	六月

區分	自五月至十月		自十一月至四月	
	牝成豚	仔成豚	牝成豚	仔成豚
醬油粕	0.8	0.8	0.8	0.8
穀	0.10	0.10	0.10	0.10
米糠	0.3	0.3	0.3	0.3
大豆粕	0.10	0.10	0.10	0.10
魚粉末	0.01	0.01	0.01	0.01
苜蓿	1.00	1.00	1.00	1.00
根菜	1.00	1.00	1.00	1.00

二、管理

豚舎ニ接續シタル運動場ニ於テ成豚ハ各別ニ仔豚ハ混同シテ自由運動ヲ行ハシム手入ハ藁束又ハ刷毛ヲ以テ全身ヲ梳拭シ夏期天氣晴朗ノ日ハ水浴場ニ追込ミ全身ヲ洗滌ス冬期モ亦晴天ヲ見計ヒ微温湯ヲ以テ全身洗除ヲ行フ豚舎ハ一日一回掃除ヲナシ藁糞ハ新鮮ナルモノト交換ス尙仔附豚ノモノニアリテハ藁糞ハ五寸ノ長サニ切り敷料トナス而シテ夏期ハ仔附豚ノ外藁糞ヲ給セズシテ舎内ヲ一日一回水ニテ洗滌シ常ニ清潔ナラシム

第三項 家禽

本年度飼養セル種鶏ハ單冠白色レグホーン種、名古屋種、出雲コーチン種、横斑プリマスロツク種、黒色ミシルカ種ノ五種ニシテ特殊家禽ニ於テハ北京ダツク、青銅色吐綬鶏、白鷺、及珠雞四種ナリシモ内黒色ミシルカ種、北京ダツク、白鷺、珠雞ノ四種ハ利用性ニ乏シキニ因リ年度内ニ於テ廢養シ専ラ實用

鶏ヲ増加シ産卵能力ノ調査ヲ實施シ改良蕃殖ニ力メ種鶏種卵ノ配布ヲ行ヒタリ

第一 種禽現在羽數 (昭和四年三月三十一日現在)

種類	雄				雌				計
	二年	三年	四年	五年	二年	三年	四年	五年	
單冠白色レグホーン種	六				五				一一
横斑プリマスロツク種									
名古屋種									
出雲コーチン種									
珠雞									
青銅色吐綬鶏									
計	六	一	一	一	五	四	二	一	一三

第二 種鶏ノ飼養管理

鶏舎ハ採光及換氣ニ留意シ、乾燥清潔ヲ圖ル爲舎内ハ周年切藁ヲ敷キ搔床トシ運動ヲ催進セシムルノ外砂浴場ヲ設ク又舎内及時架、産卵箱等ハ時々クレオリン、クレンシン、クレオソート油ヲ撒希シ殺菌及寄生虫ノ發生、驅除ニ努メタリ、運動場ハ一年數回耕起シ石灰ヲ撒布シ消毒ヲ行フノ外夏季ノ日覆ヲ作ル爲ポプラー及桐樹ヲ栽植セリ
飼料ハ粉餌及粒餌ヲ併用シ左記標準ニ依リ配合セルモノヲ鶏ノ種類、季節及産卵狀態等ヲ斟酌シテ給與セリ、又鶏ノ健康ヲ増進スル爲時々規那丁幾、林檎鐵丁幾及蕃椒丁幾ノ合劑又ハ「カマンガン酸カリウム」ヲ飲水中ニ混與シ飼養管理ニ留意セル爲健康狀態極メテ良好ナリ

種鶏飼料配合例

一、粉 餌

種 類	配 合 率	一〇〇羽ニ對スル五日分	飼 料 價 額	同 單 價 (貫)
種 類				
魚 豆 計	一〇〇	九〇〇	三〇〇	六五〇
大 豆 粕 粉	一五	一三五	一八〇	四〇〇
米 粕 粉	二五	二二五	一八〇	二六〇
玉 蜀 黍 粉	三〇	二七〇	〇〇	四〇〇
糠 末	二五	二二五	七四	三三〇
計	一〇〇	九〇〇	七四二	六五〇

二、粒 餌

種 類	配 合 率	一〇〇羽ニ對スル五日分	飼 料 價 額	同 單 價 (貫)
種 類				
大 小 計	一〇〇	九〇〇	二八〇	三一〇
麥	四〇	三六〇	九六	三六〇
麥	六〇	五四〇	一四〇	三四〇
計	一〇〇	九〇〇	二八〇	三一〇

備 考

- 一 粉餌ハ一日一羽ニ對シ約十五匁ヲ標準トシ五日分ヲ一回ニ配合シ之ヲ自働給餌器ニ入レ不斷給與トス
- 二 粒餌ハ一日一羽ニ對シ十五匁ヲ標準トシ小麥ハ一夜浸水シ大麥ハ芽出シトシ全量ノ三分一ヲ朝ニ殘リ三分ノ二ヲ夕刻撒餌トス
- 三 飲水ハ常ニ新鮮ナルモノヲ自由ニ飲マシム

- 四 綠餌ハ細切シテ午前午後ノ二回ニ給與ス
- 五 貝殼、木炭末、砂礫等ハ別器ニ入レ自由ニ採取セシム

第三 第三育雛飼料配合例

一、粉 餌

種 類	飼 付 ヨリ 七 日 迄	八 日 目 ヨリ 三 十 日 迄	三 十 一 日 目 ヨリ 六 十 日 迄	六 十 一 日 目 ヨリ 百 日 迄	百 一 日 目 ヨリ 百 二 十 日 迄
種 類					
小 麥 粉 末	三〇%	二五%	二〇%	一五%	一〇%
芽 糠 末	二〇%	二〇%	二〇%	二〇%	二〇%
玉 蜀 黍 粉	二〇%	二〇%	二〇%	二〇%	二〇%
米 糠 末	三〇%	二〇%	二〇%	二〇%	二〇%
大 豆 粕 粉	一〇%	一〇%	一〇%	一〇%	一〇%
魚 粉	一〇%	一〇%	一〇%	一〇%	一〇%
雞 卵 粉	一〇%	一〇%	一〇%	一〇%	一〇%
計	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%

二、粒 餌

種 類	飼 付 ヨリ 七 日 迄	八 日 目 ヨリ 三 十 日 迄	三 十 一 日 目 ヨリ 六 十 日 迄	六 十 一 日 目 ヨリ 百 日 迄	百 一 日 目 ヨリ 百 二 十 日 迄
種 類					
大 小 計	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
麥	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%
計	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%	一〇〇%

備 考

- 一 雛ハ孵化后三十六時間以上ヲ經過シテ餌付ヲ行フ
- 一 飼料ハ一日量ヲ五回乃至六回時刻ヲ定メテ分與シ一回ノ給與量ハ給餌後十五分間位啄食スルヲ以テ程度トス但シ三週乃至四週後ハ粉餌ヲ不斷給與ス
- 一 鶏卵ハ少量加水シヨク攪拌加熱シ細末ナル炒卵トシ午前ト午後ノ二回ニ分與ス
- 一 玄小米ハ最初五厘目ノ篩ニテ篩ヒ一夜浸水シテ撒與ス
- 一 木炭末貝殻及土ハ別器ニ入レ自由ニ攝取セシム
- 一 青菜ハ細切シ午前及午後ノ二回ニ給與ス
- 一 飲水ハ常ニ新鮮ナルモノヲ十分給與ス
- 一 時宜ニ依リ粉餌中ニ肝油ヲ二%混與スルコト

第四 孵化成績

孵化ハ拂下種禽ノ作出上二月上旬ニ開始シ五月上旬ニ終了セリ、而テ少數ノ母鶏孵化ヲ除ク外ハ人工孵化法ニ依リタリ、本年度ニ於テ使用セル孵卵器ハサイフアー式、伴田式及江口式ノ三種ニシテ其ノ成績左表ノ如シ

種	類	入卵個數	無精卵	發育中止卵	死籠	孵化羽數	入卵數ニ對スル孵化歩合	受精卵ニ對スル孵化歩合
單冠白色レグホーン種	一、八〇三	一四七	一二四	二八四	一、二四八	六九%	七五%	
黑色ミノルカ種	五二	二五	二〇	三五	三七	六三%	七〇%	
出雲コーチン種	一一四	二六	一〇	二〇	五八	六一%	六六%	
名古屋種	二八一	二二	一七	六四	一七八	六三%	六六%	
橫濱プリマスロツク種	二四	二	一	二	一三	五四%	五九%	
吐穀	一六	二	一	四	九	五六%	五六%	
計	二、二九〇	二二二	一六四	三七九	一、五二五	六七%	七四%	

一、種禽拂下

鳥都市名	種類別	單冠白色レグホーン種	黑色ミノルカ種	名古屋種	出雲コーチン種	計
松	江	二	一	一	一	二
八	東	四	一	一	一	六
能	義	一	一	一	一	一
仁	多	一	一	一	一	一
大	原	一	一	一	一	一
飯	三	一	一	一	一	一
籠	八	二	一	一	一	一
安	川	四	一	一	一	一
通	濃	一	一	一	一	一
邑	智	一	一	一	一	一
那	摩	一	一	一	一	一
美	濃	一	一	一	一	一
鹿	賀	一	一	一	一	一
鹿	足	一	一	一	一	一
鹿	岐	一	一	一	一	一
計	外	二四〇	一〇〇	八〇	七	三二八

第五 産卵調

種別	月別	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	一月	二月	三月	計
單冠白色レグホーン種		九五七	九二八	六六三	五三九	四一六	二三〇	七〇	一六四	三八八	六三三	八九四	一、五〇八	七三九九
黑色ミノルカ種		一五九	一六五	一一二	一〇三	九六	一〇三	一九	廢	一	一	一	七六八	

烟地番號	區分	反別
第一號地	南區	一反五畝二十二步
第二號地	南區	三反九畝十八步
第三號地	南區	一反六畝五步
第四號地	南區	一反一畝三步
第五號地	北區	一反三畝二十二步
第六號地	北區	八畝二十九步
第七號地	北區	一反三畝二十二步
第八號地	東區	八畝二十九步
第九號地	東區	一反五畝十三步
第十號地	東區	一反三步
第十一號地	東區	一反一畝步
第十二號地	中區	六畝步五畝十八步
第十三號地	中區	三反一畝十四步七合
第十四號地	西區	二町一反七畝二十步

第三章 圃場
第一項 作付反別區分表

縣區	計	外岐
隱岐	六七二	八四六
計	二〇七	一五
	一五	一一〇
	三七七	二四
	二四	一、一四九

島市郡名	種類別	白色レグホ	黒色ミールカ	名古屋種	出雲コーチン	吐綾	北京ダック	珠	鷓	計
松東	江東	九二	一〇	三一	五	九	〇	〇	九	一六〇
能多	義多	三〇	六	一〇	〇	二	一	〇	九	六四
大原	石原	六六	〇	五	〇	四	〇	〇	〇	七
飯川	濃川	四六	〇	七	〇	〇	〇	〇	〇	六
安摩	摩摩	五二	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	四
通智	智智	二六	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	三
那賀	賀賀	二一	〇	一	〇	〇	〇	〇	〇	五
美足	足足	四〇	〇	二	〇	〇	〇	〇	〇	三八
鹿美	美美	〇	〇	四	〇	〇	〇	〇	〇	六
計		三〇六	一六	一一一	五	九	〇	〇	九	五〇八

一、種卵拂下調

名古屋種	出雲コーチン	吐綾	北京ダック	珠	鷓	計
三三三	一五	三三	三三	一〇	一五	二、五八
二二二	二二	二二	二二	二二	二二	一、五八
一一一	一一	一一	一一	一一	一一	一、〇八
〇〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇、〇〇
計	計	計	計	計	計	計

第二項 栽培牧草種類

本場ハ耕作地少ナキヲ以テ主トシテ雜草類ヲ栽培シ穀菽類ハ種實用及作物ノ輪轉ノ間作ニテ僅ニ栽培ス

- (一) 青刈用作物
 - 一例、前年十一月中旬青刈燕麥播種シ翌年五月上旬青刈大豆ヲ間作シ青刈燕麥ハ五月中旬ヨリ六月上旬ニ收穫シ青刈大豆ハ七月下旬迄ニ收穫其後耕起シ青刈玉蜀黍ノ栽培ヲナス
 - 二例、三月下旬青刈燕麥播種六月上旬青刈玉蜀黍間作青刈燕麥ハ六月中下旬ニ收穫尙七月上旬玉蜀黍ノ間作ニ青刈大豆ヲ間作シ玉蜀黍ハ七月下旬收穫青大豆ハ九月中旬迄ニ收穫シ其後耕起シテ九月下旬津田燕ヲ栽培シ之レヲ翌年二月頃マテニ收穫ス
 - 三例、第一例ノ玉蜀黍ヲ收穫シタル跡地ニ四月中旬青刈大豆播種シ六月下旬七月上旬ニ收穫シ大豆ヲ播種ス
- (二) 永年牧草
 - 永年牧草ハオーチャードクラス、ルサーンノ二種トス、オーチャードクラスハ四年目ニテ更新シ、ルサーン六年目ニテ更新ス、ルサーンノ壽命短キハ耕地ハ地下水ノ高キト雜草ノ多キニ依ルモノナリ
- (三) 蔬菜類
 - 養鶏飼料トシテ本年度ニ於テ栽培シタル蔬菜類ハ青菜、千筋菜、かき葉大根、ケールニシテ其他家畜用根菜類ノ莖葉ヲ利用セリ

第三項 作付表

本年度飼料作物作付ノ概況ヲ表示セバ左ノ如シ

作物名	用途別	栽培面積	總收量	反當收量	摘	要
燕表	青刈用	三反四畝九步	七、三〇三、〇	二、一〇〇、〇		
	城草用	一反一畝六步	二、三五二、〇	二、一〇〇、〇		
	科實用	六畝步	一、九八、〇	三、三〇、〇		
玉蜀黍	青刈用	二反六畝九步	七、一〇一、〇	二、七〇〇、〇		
	埋草用	三畝步	八一〇、〇	二、七〇〇、〇		
	種實用	三畝六步	〇、四四七	一、四〇〇		
大豆	青刈用	五反九畝九步	七、一一六、〇	一、二〇〇、〇		
ルーサン	青刈用	三反 十八步	一四、二二九、〇	四、六五〇、〇		一番刈四貫五百目二、三四番刈各三貫目合算五番刈二貫目
オーチャードクラス	青刈用	三反三畝十八步	一一、〇九六、〇	三、六〇〇、〇		三、四、五番刈ハ青草トシテ利用其合集ナリ
津田燕	乾草用	三反三畝十八步	二、五二〇、〇	七五〇、〇		一、二番刈合集シタル數量トス
大田燕	生用	八畝十二步	一、六三八、〇	一、九五〇、〇		
青菜(鳥糞)	生用	八畝二十四步	一、八四八、〇	二、一〇〇、〇		
夏大根	綠飼用	五畝十五步	九九〇、〇	一、八〇〇、〇		
かき葉大根	全	一畝 六步	一〇四、四	八七〇、〇		
	全	二畝十二步	二七三、六	一、一四〇、〇		

備考 作付面積ノ實際面積ニ比シ多キハ二回三回輪轉的ニ利用シタル結果ナリ

第四項 栽培狀況

作物ノ種類ニヨリ多少栽培方法ヲ異ニスルモ概ネ當場生産ノ堆肥ヲ牛糞ニテ鋤込ミ元肥トナシ之レヲ整地シ劃線播種ヲ行フ發芽後ハ豚尿尿ヲ追肥トナシ兩三回中耕及除草ヲナシ作物ノ生育ヲ助ク特別ノ場合ヲ除ク外金肥ヲ施用セズ

本年度栽培ノ概況ヲ示セバ左ノ如シ

324
306

飼料作物栽培表 (一反歩當)

作物名	用途別	播種期	播種量	播種法	畦幅	收穫期	施肥量
燕麥	青刈用	自十一月下旬至三月下旬	八升五合	條播	一尺八寸	自五月中旬至七月上旬	一〇〇〇
玉蜀黍	青刈用	自八月下旬至十一月下旬	六升	條播	二尺	自七月中旬至八月下旬	一〇〇〇
大豆	種實用	自四月中旬至七月下旬	三升五合	點播	二尺	自八月下旬至九月下旬	一、二〇〇
大サソ	青刈用	自四月中旬至七月下旬	一升五合	點播	二尺五寸	自八月下旬至九月下旬	一、二〇〇
ルーサン	青刈用	自七月下旬至十一月下旬	六升	條播	二尺	自九月下旬至十月下旬	三五〇
オーチャードラクス	青刈用	自十一月下旬至三月下旬	二升	條播	二尺	自十月下旬至十一月下旬	六〇〇
津田蕪	生用	自九月中旬至十一月下旬	五合	條播	二尺二寸	自十一月下旬至十二月下旬	一、二〇〇
大豆	生用	自九月上旬至十一月下旬	八合	條播	二尺五寸	自十一月下旬至十二月下旬	六〇〇
青葉	綠飼用	自九月中旬至十一月下旬	五合	條播	二尺二寸	自十一月下旬至十二月下旬	九〇〇
夏大根	全	自二月下旬至四月下旬	六合	全	二尺	自四月下旬至五月下旬	六〇〇
かき菜大根	全	自十月下旬至十二月下旬	六合	全	二尺	自十二月下旬至一月下旬	九〇〇

第五項 飼料貯藏

青刈燕麥及青刈玉蜀黍ヲ材料トシ埋草製造ヲ行ヒ冬期ノ粗飼料ニ充ツ之レガ製造方法左ノ如シ

詰込及重石

七月十日材料ヲ三寸前後ニ切斷シ均一ニ窠内ニ撒布シ人夫數名ニ充分ニ踏込マシメ重石ハ一立方尺ニ付六貫ヲ使用スルニ重石沈下適當ニシテ十二月下旬發窖シタルニ棄却量少ク製造歩合良好ナリ

24
20



第五項

五項の記述が不明瞭なため、この項の記述は省略する。また、この項の記述は、この項の記述と重複しているため、この項の記述は省略する。

昭和四年九月十五日印刷
昭和四年九月二十日發行

島根縣種畜場

松江片原町八三
印刷者 廣江益雄
松江片原町八三
印刷所 廣江活版所

終

